

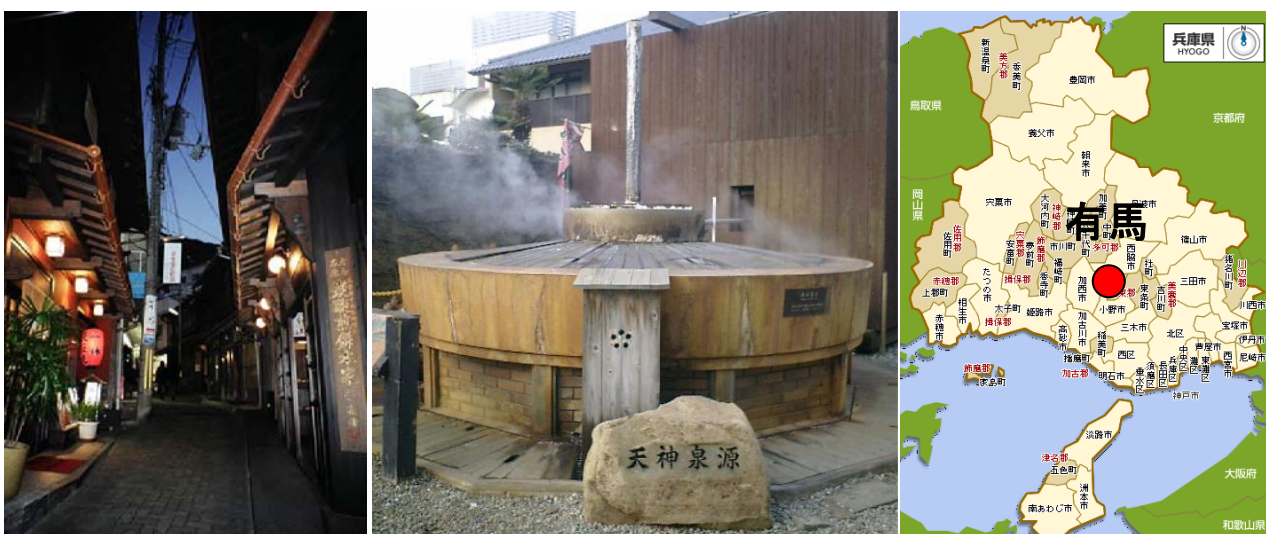
有馬地区景観形成市民協定 運用ガイドライン

有馬まちなみ景観委員会

はじめに

有馬は、六甲山系の自然に囲まれた中にたたく日本を代表する「温泉（いで湯）のまち」であり、関西の奥座敷として、温泉とその情緒的景観を求めて数多くの観光客に親しまれているまちです。そして、その温泉情緒は、町なかの湯けむり（泉源）とともに、「湯本坂」などに代表される狭い路地とその沿道の木造建物がその雰囲気醸し出しており、地元では神戸市都市景観条例に基づく「景観形成市民協定」により、その景観保全・育成に向けた積極的な取組を行っています。これまで、この協定の範囲も広げるなどもしてきましたが、この度、きめ細やかな有馬全体の景観形成のルールへと変更しました。この解説として、本書の「有馬地区景観形成市民協定運用ガイドライン」を発行するに至りました。

事業者、施工者、地域住民のみなさまにおかれましては、このガイドラインの主旨をお汲み頂き、活用して頂きますようお願い申し上げます。
有馬まちなみ景観委員会 弓削敏行



有馬地区景観形成ガイドライン 目次

はじめに

1	有馬地区の概要	3	項目別ガイドライン	
1)	有馬の歴史	1	1) 基本的な考え方	9
2)	有馬の魅力	2	2) 共通基準	11
3)	有馬の地形的特徴	3	3) 景観形成道路沿い基準	15
4)	これまでのまちづくり活動	4	(A～D、共通)	
2	景観市民協定	4	資料編	
1)	協定区域	5	1) 有馬六景	21
2)	目標、方針	6	2) 協定範囲の変遷	22
3)	まちなみ基準	7	3) 景観形成道路沿道での新築事例	23

1 有馬地区の概要

1) 有馬の歴史

有馬温泉の歴史は、神代の昔、三羽の傷ついた鳥が沸き出す泉で傷を癒しているのを大己貴命と少彦名命が見つけたのが有馬温泉の始まりと伝えられています。有馬温泉が広く知られるのは、奈良期に行基が温泉寺を建立し、鎌倉期に仁西上人が十二の宿坊を建てた時からといわれ、全国に広めたのは、この地を大変気に入った太閤秀吉と言われています。江戸期になってからは、温泉の効能により全国でも評判の高い湯治場となりました。



有馬全景(大判手彩色写真、明治、20.6×27cm)

2) 有馬の魅力

兵庫県神戸市にある有馬温泉は、神戸や大阪から電車やバスで1時間足らずで行ける温泉地です。その立地の良さから、関西の奥座敷として古くから沢山の山人々に愛されてきました。有馬は、四季折々が特徴ある自然景観を醸し出しています。そして、有馬温泉は日本三大名湯に数えられるほどの温泉街でもあります。主要な七つの泉源から湧き出る魅力あふれる温泉なのです。古くからの温泉地としての景観も魅力のひとつです。木造3階建の旅館がひしめいていたなごりなどがその歴史を物語っています。



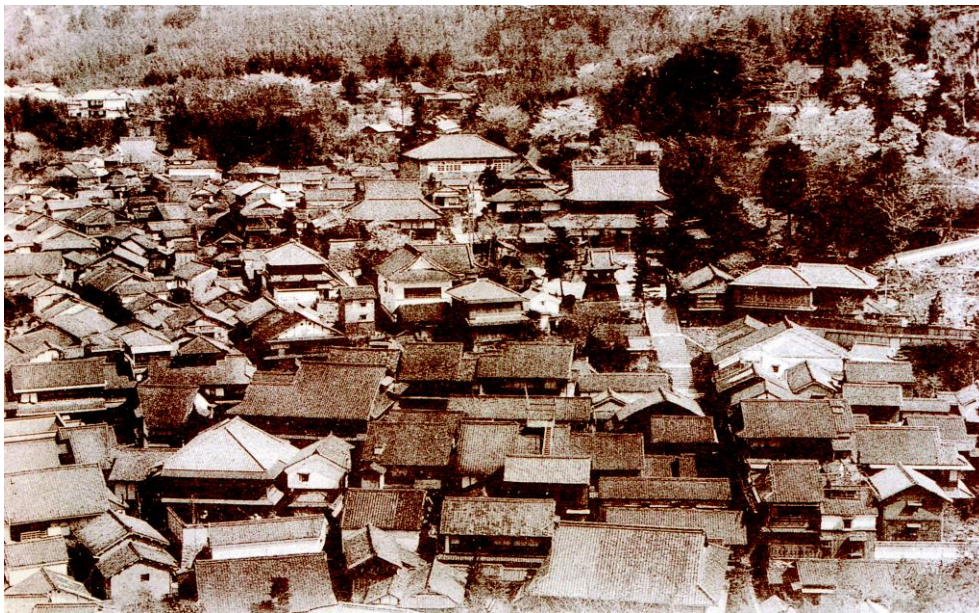
木造3階建



連続したまちなみ



旅館の佇まい



3) 有馬の地形的特徴

有馬地区のほぼ中央部に、滝川と六甲川が合流し、有馬川になる場所があります。この公園は平成7年に整備され、夏場には川床にお座敷などが出て、大変賑わいます。川の上には、ねね橋や太閤橋が架かっています。有馬温泉には硫黄臭がないので、ゆったりとした散策には、うってつけのようです。



整備された親水公園



毎年夏に行われる川床のイベント風景

この二つの川に挟まれた谷筋にまちが形成されました。その地形的特徴は、「坂と階段」しかも狭隘な道筋となっています。この地形的特徴を活かしたまちなみと建築がその特徴となっています。そして、景観はそれに逆らわず、形成されています。

また、600万年前からの海水が、世界一深い60Km下の上部マントルから湧き出た温泉は、鉄分や炭酸を多く含んだものです。風土的特色はそこから土の色や臭いとして眼に見え、感じられます。多くの有馬建築の外壁の色彩や素材は、このあたりが影響しているようです。



有馬六景（※21 ページ参照）をはじめとする有馬の特徴である自然環境は、今も保持されています。有馬のまちなみや建築を魅力的なものにするためには、自然を活かした「最古泉有馬に相応しい和風の」イメージを中心に据え、周辺山々の自然のみどりだけではなく、家屋や通りにも庭を設けるなどした人が作り出したみどりも有効なことと思っています。

4)これまでの景観まちづくり活動

火災が起因で、都市計画道路が計画されましたが、景観的には、現在のまちなみが失われてしまいます。その危機感から平成13年から景観まちづくりが実質スタートしました。これまでの景観まちづくり活動を年表にして紹介します。

昭和43年11月 池之坊満月城の火災。

死者30人・負傷者44人、焼損面積6,950㎡。

昭和54年12月 都市計画道路有馬中央線告示。

昭和63年3月 地元で有馬町マスタープラン策定。

平成12年8月 神戸市【今後の神戸の都市づくり】

まちづくりに合わせて線形等の変更を検討と位置づけ。

同13年～ 地元まちなみ活性化委員会（現まちなみ景観委員会）が有馬の魅力や景観に関するアンケート調査を実施。結果、景観に対する評価が高いこと、車輛往来が危険などの回答多数。これをベースに「有馬の魅力」や「有馬のまちなみでの不満解消」へ取組む景観まちづくりを活動の中心に転換。

同15年12月 有馬地区景観形成市民協定締結。

同16年 自動車交通量調査。

同18～23年 社会実験として歩行者天国の実施。

同20年 空き家の事例研究（大阪空堀地区視察）

同21年 景観形成市民協定の変更（区域の拡大）

同23年 景観まちづくり活動を景観・交通・防災に集中し、展開することを明確化。

同24年 街並み誘導型地区計画、位置指定道路等のまちづくり手法の検討。

同25年度末 市計画道路の計画廃止が決定。

同26年8月 景観をつくる上で重要になる湯本坂の道路中心線確定。

同26～30年 5カ年計画で、景観まちづくり活動がスタート。きめ細やかな景観ルールへの見直しに向け、住民参加型ワークショップ・まち歩き、ニュース発行などで住民合意への活動。

平成29年度末 住民合意。有馬景観形成市民協定の見直案が決定。神戸市に変更協定を届出。

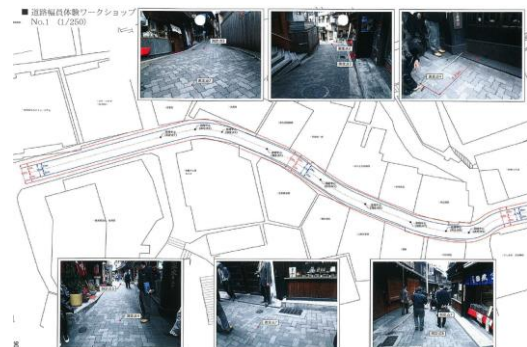
平成30年度 有馬地区景観形成ガイドライン策定。



都市計画道路の見直し



「歩行者天国」の実施 平成19～23年度



42-2項道路の中心線の確定



景観形成市民協定の変更のための住民説明会



景観形成市民協定の変更の届出

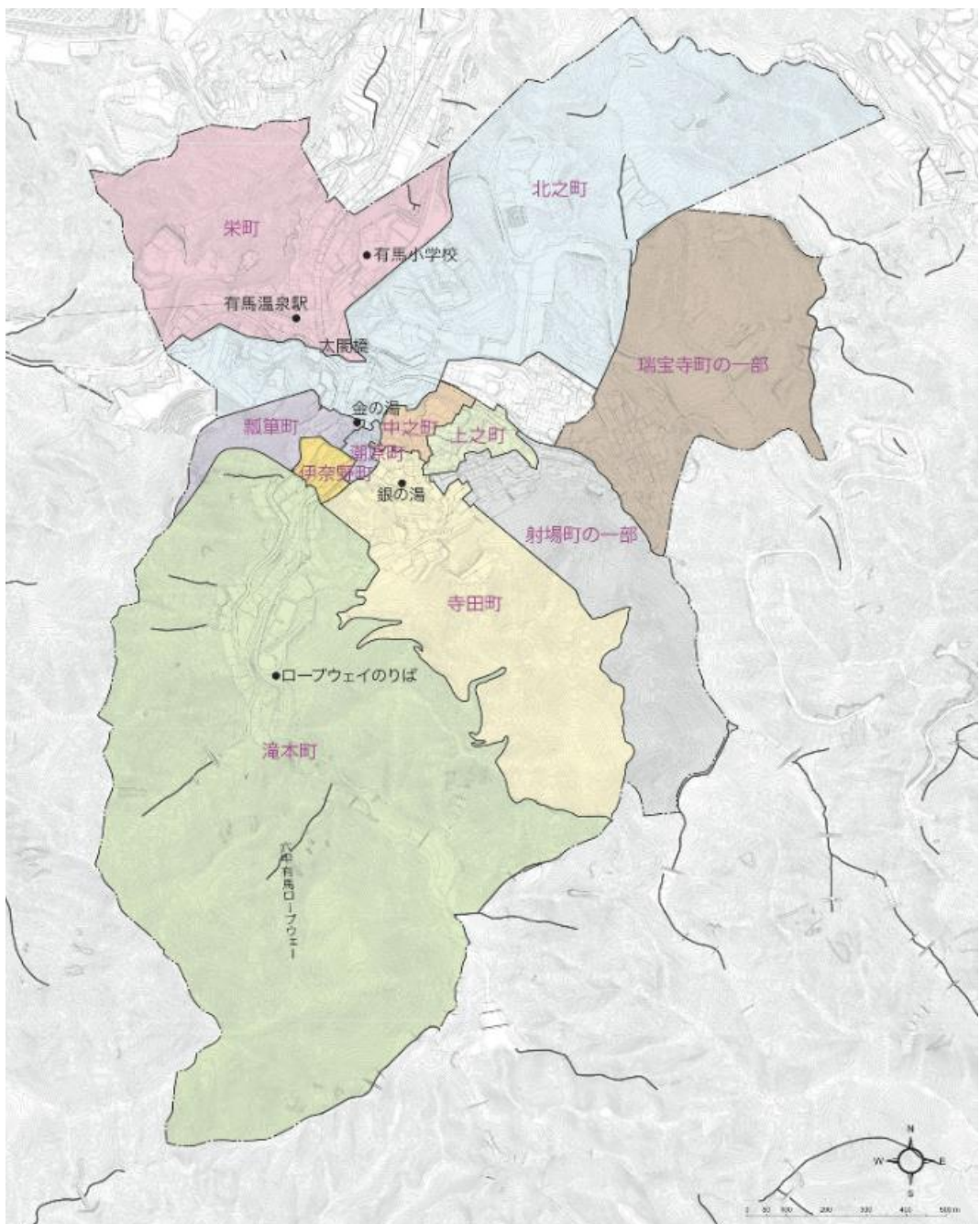
2 景観形成市民協定

1) 協定区域(区域図)

有馬では、より有馬らしい景観にするために、その将来像を、場所ごとによりきめ細かい協定ルールにしています。有馬全体（協定エリア内）を対象とした基準とともに、特に重視すべき道路沿い（景観形成道路（A～D））の基準を定めています。

景観形成市民協定の範囲は、潮原町、伊奈野町、中之町、寺田町、瓢箪町、北之町、滝本町、栄町、上之町、射場町の一部、及び瑞宝寺町の一部となります。

有馬景観形成市民協定の範囲



2) 目標、方針

-有馬地区景観形成市民協定「まちなみ基準」協定書より抜粋整理

この協定は、当地区の市民間の申し合わせとして、潮原町、伊奈野町、中之町、寺田町、瓢箪町、北之町、滝本町、栄町、上之町、射場町の一部、及び瑞宝寺町の一部に定める区域内において、建築物、工作物、建築敷地及び広告物等に関する事項を「まちなみ基準」として協定し、有馬地区のまちなみ景観を守り、育て、温泉街としての魅力アップを図ることを目的としています。

■ 基本目標

次代に引き継いでいける「まち」の基本理念としての目標は、以下のこととしています。

- (1) 歴史ある温泉地としての情緒を感じるまち。
- (2) 癒し・懐かしさを感じるまち。
- (3) 住民・来訪者が互いに心から楽しめる「生きたまち」

■ 基本方針

地区のまちなみづくりにあたっては、次のような基本方針のもとに協定者が協力するものとしています。

- (1) 有馬地区の情緒をかもし出す歴史的建造物を保全・活用するとともに、有馬地区に相応しい建築物となるよう努める。
- (2) 人々が安心して歩行できる空間を目指し、夜間でも明るい灯りのある通りをつくる。
- (3) ものづくりと、ルールづくりの両面から、住民・事業者・行政が協働して個性あるまちなみづくりに取り組む。

■ 景観への配慮

地区のまちなみづくりのなかで、次のように、景観への配慮も協定しています。

- (1) 地区内で建築物等の新築、増築、改築、修繕、宅地の造成、看板の設置（電柱広告含む）その他の土地の形質の変更で、まちなみ景観形成に影響を及ぼすおそれのある行為をする者は、「まちなみ基準」に示すまちなみ景観形成のルールに配慮し、有馬らしいまちなみ形成に貢献する。また、景観形成道路に面して建築行為等を行う場合も、まちなみ基準に適合するように努めること
- (2) 地区内で建築行為等を行う場合は、事前に有馬まちなみ委員会に届出をし、チェックリスト作成の上で協議を行うこと。
- (3) 「まちなみ基準」に沿って整備された建築物等は、その整備内容が保持されるよう維持管理に努めること。また、清掃活動や緑化運動等、美しいまちなみを形成・維持するための活動を互いに協力して行い、美しい状態を維持するように努めること。

3) まちなみ基準

協定全域 協定区域全域に適用される共通基準です。

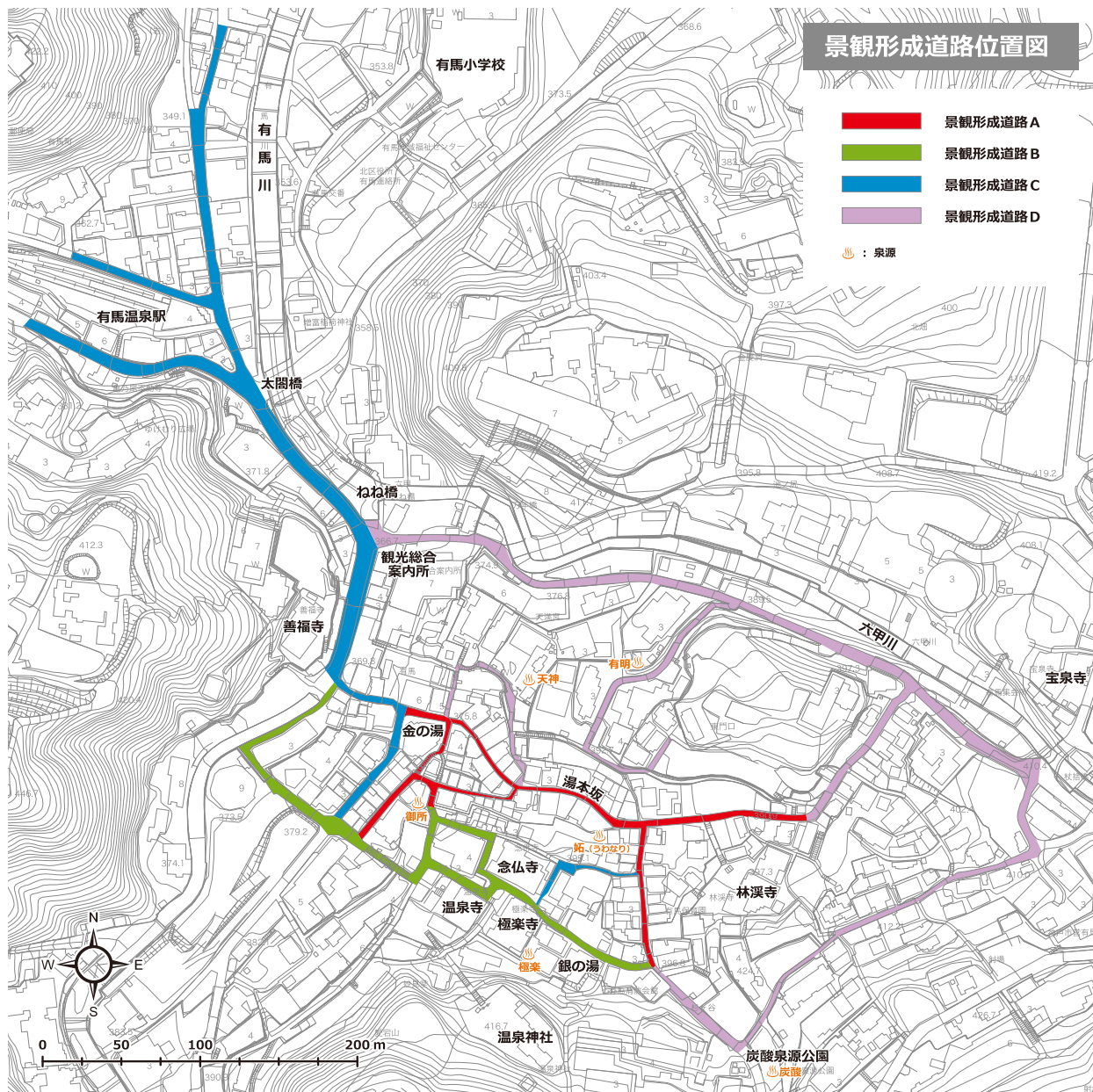
区分	有馬地区景観形成市民協定区域内協定事項
建築物の意匠・色彩	派手な色は避け落ち着いたまちなみが形成されるように努める。
門・塀等	通りに面して設置する塀や生け垣は、道ゆく人に強い印象を与えるため冷たい雰囲気を与えるコンクリートブロック塀やフェンスの設置を止め周囲のまちなみと調和したものになるよう努める。
歴史的建造物	歴史的建造物の活用を図り、新築・改築する場合においても、歴史的要素を取入れ有馬の景観を壊さないように努める。
緑化等	緑をできるだけ多く取入れ防災性の向上を図るように努める。又、隣同士で生け垣を揃えたり素材を揃える等、美しいまちなみになるよう工夫する。また、可能な限り樹木等の伐採は避ける。
看板等	看板や文字の大きさ等周辺環境に配慮する。また、点滅する看板照明は使用しないよう努める。のぼり等を使用する際は、メンテナンスに気を配り、放置しないよう努める。
延焼防止	防災性向上のため、隣地境界に接する部分は延焼防止に努める。
河川からの見え方	河川に面する部分の建築物、外構等は、河川及び対岸からの見え方に配慮する。

景観道路 景観道路沿道に適用される基準です。

区分	有馬地区景観形成道路沿い協定事項				
	景観形成道路A	景観形成道路B	景観形成道路C	景観形成道路D	
道路ごとの考え方	歴史的まちなみを継承しつつ、活力のある商業空間を育くむ。	寺町界隈に代表される落ち着いた空間を保持し育くむ	有馬らしさを表現しつつ、活力のある商業空間を育くむ。	有馬らしさを表現しつつ、落ち着いた住環境を育くむ。	
建築物	高さ・屋根	一階の庇・軒を揃えることによって、まちなみ全体に一体感がうまれるように努める。	—	—	
	意匠・色彩	有馬らしい落ち着いた雰囲気を醸し出すため、原色の鉄板や洋瓦の使用を避け勾配屋根とし、まちなみの連続感が損なわれないように努める。	—	勾配屋根等、連続性のある軽快なスカイラインを形成するように努める。	—
		勾配屋根と同じ高さに設けられた一階の庇・軒が通りに連続感を与えるように努める。	—	—	—
		建築物の開口部を伝統的な装いとし、歴史を感じさせ落ち着いた雰囲気をつくるように努める。	—	—	—
壁面の位置	奇抜な意匠は避け、外壁などで使用する材料は自然素材を基調とする。	—	奇抜な意匠は避ける。	—	
駐車場	壁面を揃える等、街並みの連続性に配慮する。	—	—	—	
設備等	駐車場が大きすぎると周囲の環境が損なわれてしまうため、駐車場の規模は小さくし、さらに、外から自動車が見えないように塀・植栽等で囲むなどまちなみと調和した物で装い、まちなみに自動車を露出させないように努める。	—	—	—	
設備等	設備等は通りから見えないように設置するか、可能な限り自然素材で装う等の工夫をするように努める。	—	—	—	
夜間景観	店舗は店を閉めた場合にもウインドウショッピングができるようにしておいたり、夜のまちなみに歴史性を感じさせる暖かみのある灯で演出してみるなど工夫する。	門扉の灯を点灯するなど明るく安全な通りをつくるように努める。	店舗は店を閉めた場合にもウインドウショッピングができるようにしておいたり、夜のまちなみに歴史性を感じさせる暖かみのある灯で演出してみるなど工夫する。	門扉の灯を点灯するなど明るく安全な通りをつくるように努める。	
看板	歴史性を感じられる意匠とするよう努める。	—	—	—	
自動販売機	設置する場合は、色彩・素材・形状は周辺環境に配慮するように工夫する。	—	—	—	

■ 景観形成道路位置図

景観形成道路をA, B, C, Dと4つの種類に分け、重要景観ゾーンとしています。(基準-前頁掲載)



3 項目別ガイドライン

1) 基本的な考え方

■ 歴史を継承する

まちなみは、建築個々の連続体ととらえることも出来ます。建築が周辺との調和を図りながら、挿入された時、そのまちなみは、個の連続の線となって、歴史を感じる落ち着いたまちなみを感じるようになります。素材・色調を整え、家並の連続性を保つよう心がけましょう。



坂道と一体となったまちなみ



連続感のある通り



歴史を感じさせる高欄



木造3階建の建築群



連続した切妻屋根



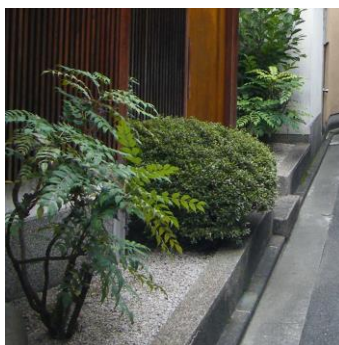
古建築と新和風建築の調和

■ ゆとりある住宅地にする

住宅地においては、建物は落ち着いた感じをかもし出しましょう。また、有馬全域に、歴史を感じるような雰囲気を作りたいものです。静かな住宅地でも木やみどりが沿道や庭に取り入れることにより、落ち着きとぬくもりを感じるものです。



管理されたみどりと住宅の調和



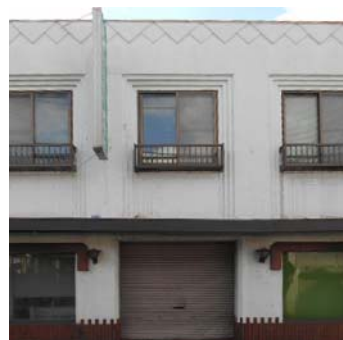
みどりで栄える小さな空間



和を感じる格子と漆喰

■ 情緒や楽しさを感じさせる商業地にする

商業地には活力と賑わいが必要ですが、個々バラバラでは有馬らしい店舗づくりとはいえません。歴史とモダンを兼ね備えた車窓からみてもちょっと気になるような店舗づくりが大事です。気の利いたアイキャッチと有馬だと感じるセンスが問われます。



特に、看板や広告などは、その主張するあまり表現や色彩などがケバケバしたものになりがちです。センスあるものでアピールしましょう。



■ 緑と空地の活用をする

有馬には、その土地形状や地形、接道条件から多くの空き地が存在しています。しかし、この空地は防災的には、活きているみどりと同様に有効なものです。

空地や沿道には、管理出来るみどりを取り入れ、まちに潤いと安全を獲得しましょう。



2) 共通基準

協定全域 協定区域全域に適用される共通基準です。

建築物の意匠・色彩／派手な色は避け、落ち着いたまちなみが形成されるように努めましょう。

意匠では、繊細な線模様（格子）が歴史を感じる演出となり、その**素材**は**木板張や漆喰、土壁風、色彩**は**茶系からベージュ系**が落ち着いたまちなみを形成するのにより効果的です。



落ち着いた雰囲気をもつ玄関先



歴史を感じる演出のすだれや高欄



和調で落ち着いた雰囲気

門・塀等／通りに面しての塀や生垣は、周囲のまちなみと調和したものになるよう努めましょう。

門や塀は、自然感を活かしたものにしましょう。みどりの生垣や竹、木、土などの**素材**の塀も道行く人が落ち着いて歩ける空間となります。また、敷地内がすっきりしているなら開放した敷き際にするものいいでしょう。



周囲に調和したシンプルな形態



瓦と土塀による和風のしつらえ



茶店風に演出された店先

歴史的建造物／新築・改築する場合においても、歴史的要素を取入れましょう。

歴史的な家屋の格子などは、木造りの建具が美しいし、古風さを感じるものです。 歴史的要素を取り入れ、古い建物の良さを活かし、古ぼけたボロさではなく、懐かしさを感じさせるものにしましょう。



きれいな直角棧格子や銅板葺



整然と組み込まれた格子



瓦屋根で歴史を継承

緑化等／緑を多く取入れ防災性の向上を図るように努めるとともに、隣同士で生け垣を揃えたり素材を揃えるなど、美しいまちなみになるよう工夫しましょう。また、樹木等の伐採も避けましょう。

木塀などと緑の調和はいいものです。また、塀越しの緑はボリューム感が望まれますが、足元の緑は少量でも効くものです。

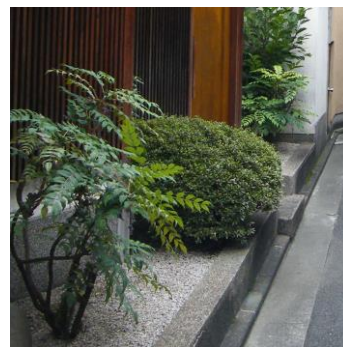
手入れしつつ活かしていく 緑を少しでも多く取り入れた町並みを目指しましょう。



ゆとりとして道に面した緑



塀越しの緑と階段のバランス



足元の緑は少量でも効果ある



入口にちょっとした緑



緑で緩衝帯をつくる



見上げる緑も効果がある

看板等／看板・文字の大きさ等は有馬らしく表現し、点滅する看板照明は使用しない。

のぼり等は、メンテナンスに気を配り、放置しないよう努めましょう。

木や紙などの自然素材で、字体を工夫するなどし、デザイン性で赴きをこらしたものにしま
しょう。また、場を読み取り、歴史やモダンセンスを感じるものにしましょう。



看板地板に工夫がある軒上看板



和風仕立てにした軒上看板



ブロンズでモダンセンスを発揮



看板商売の内容がわかる象形看板



手作り風な置看板



変化をつけた脇看板



オブジェ的照明看板



水引き暖簾と日除け暖簾



提灯を加え賑やかさを演出



文字を小さく工夫したテント

延焼防止

／防災性向上のため、隣地境界に接する部分は延焼防止に努めましょう。

延焼防止に効果的なのは、空間の規模、防火壁、生木における延焼防止です。空き地などのオープンスペースは広い幅員の道路以上に、また、防火壁もコンクリートの壁だけではなく、生きている樹木による壁（生垣など）も効果発揮します。



空間スペースの確保による延焼防止



コンクリート塀、生垣の防火帯



隣地と接する部分の有効な活用

河川からの見え方

／河川に面する建物や外構は、河川の対岸からの見え方に配慮しましょう。

河川沿道に軒を揃えるなどし、連続感を持つことによって、河川の景観は美しくなります。同時に、河川沿いには、静かで豊かな散策路となるよう外構を整えましょう。



家並と手前の樹木がきれいな対岸の河川景観



河川沿い整備で生まれた静寂で
落ち着いた空間

3) 景観形成道路沿い基準(A~D)

景観道路 景観道路沿道に適用される基準です。

景観形成道路 A 歴史的まちなみを継承しつつ、活力のある商業空間を育くむゾーンです。

このゾーンは、商業地でありながら、生活の息吹を感じる空間を維持しつつ景観を向上させて行くという場所で、通例の商店街ではありません。統一感のある木調の家屋が続く坂道で、有馬を代表している景観をもっています。1階が商店、2階が宿泊の木造家屋の小宿形式が有馬の町並みの基本型ですが、歴史を感じる建物の2階の高欄やすだれを設置することで、優雅な趣きがでます。また、建物と通路の絶妙なバランスともいえる狭い道幅も重要な景観の要素となっています。今後は、夜間照明を設置し、安全で安心な道路として成熟させるゾーンです。

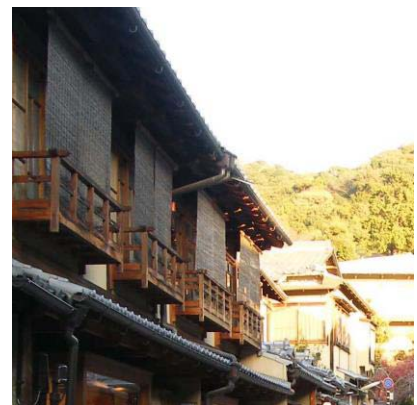
<めざすまちなみのすがた>

伝統的な装いを保ちつつ商店をアピールしていきます。古い温泉街として、つい歩いてみたくなる景観のために、狭い道幅とすだれが良い風情を醸し出すはずです。この通りでは、木造建物と道路舗装の雰囲気を活かし、まちなみにマッチした建築が望まれます。

木造家屋の連続感の雰囲気がいい景観となります。連続した2階の手摺(高欄)は、「小宿風」の**歴史を感じる**外観となります。一方では、生活の息吹を感じとることが出来る通りとしてつくられて行くことが大事なことのようです。

意匠の統一も連続感を持たせる意匠にとっては、重要な要素です。すだれと手摺のリズミカルな連続感も、いい景観をつくるのに役立ちます。また、**1階の庇・軒を揃えることも、まちなみに一体感を持たせる大事なことです。**

この通りは、格子が似合い、美しく感じられます。また、2階高欄と軒庇に乗ったオブジェに見える灯りなどはそのバランスが大事なことです。建物の外壁の色彩も**有馬の風土的(温泉の色)**でいい。**原色の鉄板や洋瓦の使用はさけ勾配屋根とし、まちなみの連続性**を守っていききたいものです。



景観形成道路 B / 寺町界隈に代表される落ち着いた空間を保持し育むゾーンです。

古い歴史のある湯治場の温泉町には神社・仏閣は欠かせません。しかし、そこにも住民の暮らしがあります。

このゾーンは、緑を多く配した落ち着いた雰囲気の通りです。そして、歴史も感じられます。

古風な積み方の石垣と豊富な緑に彩られたゆったりとした空間が醸し出す厳（おごそ）かな趣きは、お寺とも調和し、散策コースとしてもよいゾーンとなっています。



<めざすまちのすがた>

落ち着いた空間を保持し育てています。手入れされた緑の中のゆったりとした空間は、道幅も広く感じさせます。

石垣と竹塀、木のバランスが絶妙の効果を生んでいます。**奇抜な意匠は避け、緑などの自然素材を基調とする空間**に設（しつら）えましょう。



夜間灯が乏しいと不安なものです。夜間照明を単につけるだけでなく、**陰影の美しさも兼ね備えた灯を点灯するなどし、明るく安全な通りづくりに**努めましょう。



特に、歴史性を強く感じる仕掛け（犬矢来など）も時には効果を生み出す重要な要素です。文化の香りも漂わしながら、景観まちづくりに参加しましょう。



景観形成道路 C / 有馬らしさを表現しつつ、活力のある商業空間を育くむゾーンです。

車輛との共生するゾーンです。有馬の玄関口ともいえる場所でもあります。有馬温泉にきた車窓から見ても、ちょっと気になる店舗の景観づくりが重要と思われます。何かアイキャッチになるものが望まれるところです。

趣向をこらしたモダンの中に上品さが漂う活力あるまちなみを目指したいところです。

歴史とモダンの調和が似合うまちを目指しています。それは、古さを連想させるが、賑わいも感じる、そういった、活気あるまちなみなのです。

観光街を象徴する華やかで人目をひく建物でありながら、昔ながらの街並みにも、落ち着きを感じるようなまちです。

<めざすまちのすがた>

有馬らしさの表現として、古い建物と新しい建物のバランスがよい景観を目指しています。

建物を見て、観光地に来たと思う効果も出して行きたいものです。

鉄骨造でも木造風にして、有馬温泉の特徴である木造3階建に、賑わいを感じさせる通りにしていきたいと思います。

モダンな建物がアクセントとなっています。

新旧建築の対比も、いい印象を与える効果的な装置とすることが求められています。

また、建物の高さや坂道がうまくマッチし、**連続性のある軽快なスカイライン**も感じられることが必要です。

新しさの中に古さも感じるデザインが求められます。

有馬らしさと調和した**奇抜な意匠は避けた**モダン建築も求められています。

シャープな若いセンスも期待したいものです。

店舗は店を閉めた後も、観光客などが**ウィンドーショッピング**が楽しめるようにしておき、夜のまちなみに歴史性を感じさせる暖かみのある灯で演出しましょう。



景観形成道路 D / 有馬らしさを表現しつつ、落ち着いた住環境を育くむゾーンです。

商業地とは違った雰囲気づくりが求められるゾーンです。限られたスペースにも緑を配置し、歩きながらも景色が楽しめることの出来るような落ち着いた住環境を目指しています。

歴史を感じつつ、木や緑などの自然素材を多く取り入れた落ち着いたとぬくもりが感じられる住宅地を将来のイメージとしています。

<めざすまちのすがた>

落ち着いた住環境は、文化度の高さも感じられます。建物と手入れされた緑の調和が街並の良さを形成します。アイストップに緑があるとより、効果的です。

街並み呼応したかのような余・すきま空間に配置された緑はすばらしいものです。白い塀を包むような緑の植え方も時には、効果があります。

わずかな緑でも木の塀や格子とマッチングさせると、より歴史を感じる（昔ながらの）まちなみを感じることが出来ます。

通り緑は、その空間イメージを向上させる効果があります。可能な限りの植栽で、豊かな通りを形成しましょう。



【駐車場】

駐車車が露出すると周辺の環境が損なわれてしまいます。

駐車場は外から**自動車が見えないよう**に塀や植栽等で囲むなど、まちなみと調和したもので装いましょう。



【設 備】

空調屋外機やプロパンガスなどが露出すると、せっかくの景観向上は、損なわれてしまいます。

これらの設備は、道から**見えないよう**に（格子などで囲み）まちなみと調和したもので装いましょう。



【自販機】

有馬に来られた観光客などの来訪者にとって景観形成道路沿道は、有馬の印象が焼き付く景観的重要なところではあります。

自動販売機のケバケバしいものは避け、有馬らしい落ち着いた色彩のものにしましょう。



【看板】

景観形成道路A及びB沿道は特に、景観的重要な位置づけです。有馬全般の共通ルールよりも特に気をつけたものにしましょう。



4 資料編

1) 有馬六景

有馬の人達の写生をもとに高僧が絵を描き、公家が和歌や詩を添えて、1770年（明和7年）出来上がった「有馬六景」は、「自然と人」がおりなすひだのようなものなのです。「有馬」を語るのにこれほどうまく表現されているものは他にありません。脈々と流れているのは、「情と風」です。人と自然の見事なまでの調和です。その「有馬六景」をご紹介します。

巻頭・鼓滝松風

空間を支配しているのは、木立の静寂な空間に見える滝の姿とその音です。静寂な冬から春にかけての季節のように感じます。

【山まつのあらしになおもひびくかな つづみがたきの水のしらべは】
近衛摂政太政大臣内前公



第二・有明櫻春望

有馬の桜は少し遅く開花しますが、一斉に開花します。冬から春に明ける季節の変化を感じます。

【花にとはいざ白雲の山のはに有明さくら盛り成る頃】
西行法師



第三・功地山(くむちやま)秋月

有馬の街からは東南の山で朝日や月があがってくる方角にある山です。いにしへの「月」は、水面に写る反射したのが美しくみえるとしました。

【鹿の音もふけ行夜半のやまのはに すみのぼるつきのかげのさやけき】
飛鳥井大納言雅重



第四・落葉山夕照

有馬三山(落葉山, 灰形山, 湯槽谷山を総称)の一つ、有馬の街から西の方角にある山です。標高526mの頂上には妙見寺があり、ここに落ちる夕陽は、絶景です。

【落葉之山名故奇 斜陽風景更湛思 懸知勝地常多賞 再在丹楓滿墜時】
四辻大納言公亭卿



第五・温泉寺晩鐘

鐘の音によって地区が一体化しています。とりかこまれた山間を支配する晩鐘のすばらしさ。

【いく里の暮おどろかす声ならん 此やまでらのいりあいの鐘】
閑院大宰帥典仁親王



巻軸・有馬富士雪

北に位置するこの山は雪を抱えています。

【東海芙蓉元等名 三峰千載雪花清 何疑常欲温泉者 好擬南山比寿榮】
九條左大臣尚實公



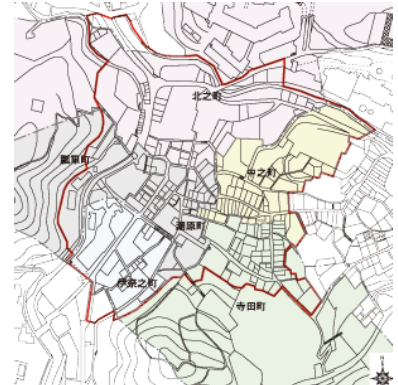
2) 協定範囲の変遷

有馬地区景観形成市民協定は、これまで、2度変更されています。その変遷をご紹介します、有馬景観まちづくりへの思いをお伝えしたいと思います。

■ 当初の景観市民協定の範囲／面積：約12ha

景観形成市民協定締結日(平成 15 年 12 月 17 日)

区域：神戸市北区有馬町の一部(潮原町、伊奈野町、中之町、及び寺田町、瓢箪町、北之町の各一部)

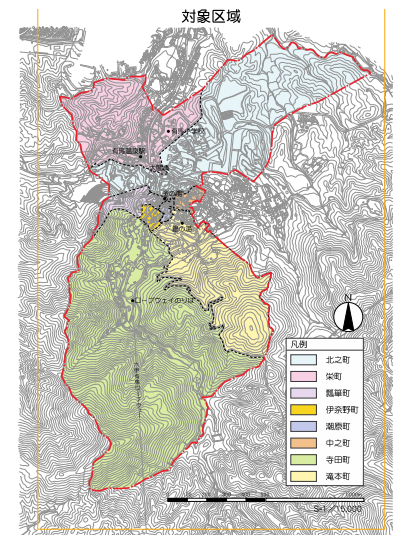


景観形成市民協定事前協議完了物件 むら玄(第5号)・しゅう坊(第9号)

■ 最初の区域変更／面積：約293ha

景観形成市民協定区域変更日(平成 21 年 10 月 14 日)

区域：神戸市北区有馬町の一部(潮原町、伊奈野町、中之町、寺田町、瓢箪町、北之町、栄町、滝本町)

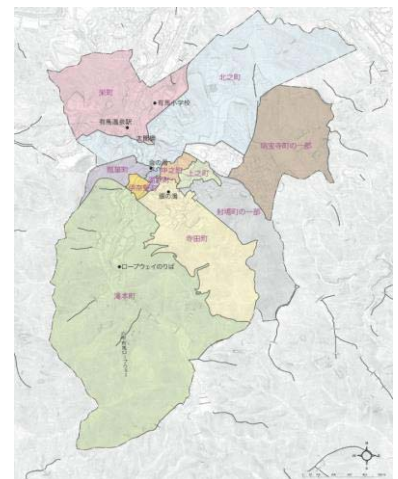


同協議完了物件 なかさ(第 20 号)・ふじ笑(第 20 号)

■ 今回の区域変更／面積：約329ha

景観形成市民協定区域変更日(平成 30 年 6 月 17 日)

区域：神戸市北区有馬町の一部(潮原町、伊奈野町、中之町、寺田町、瓢箪町、北之町、栄町、滝本町、上之町、射場町の一部、及び瑞宝寺町の一部)



同協議完了物件 片山商店(第 52 号)・検番喫茶一糸(第 57 号)

3) 景観形成道路沿道での新築事例

これまでに、有馬まちなみ景観委員会に届出がされ、景観形成道路沿道に建設された新築物件をご紹介します。

事例 1：景観形成道路（A）-湯本坂共同化（2017 竣工）

湯本坂に面した外観は、低層部の庇の連続性や2階の高欄とすだれが設けられ張り出した格子のフレームが現代的ながらも歴史性を感じられる。一方、沿道裏ともいえる隣地との境は、十分なオープンスペースが確保されており、防災的にも配慮されている。



事例 2：景観形成道路（A）-川上商店（2015 竣工）

まちなみに配慮された小庇や高欄、外壁の色彩、整然とした表情の瓦屋根、こまやかなディテールは、鉄筋コンクリート構造でありながら、和建築の特徴を捉えている。暖簾や開かれた外構のしつらえが道行く人に安心と心地良さを与え、良い景観づくりに寄与している。



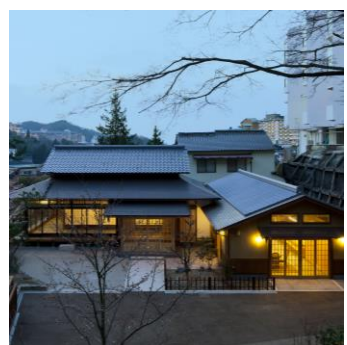
事例 3：景観形成道路（C）-モアイ（2018 竣工）

モダンな感覚のデザインされたシンプルな外観でありながら、落ち着いた色調と素材で商空間として和ませている。周辺の空地の使い方や店舗へのアクセスにその工夫が見られ、有馬特有の自然感を加味させている。



事例 4：景観形成道路（D）-三ツ森炭酸店（2011 竣工）

敷き際の開放的な格子状の柵は、その内部を心地良くさせる。前庭のひろがり、落ち着いた感覚の空間を漂わしている。また、夜間照明の灯は、道行く人に安心感を与える効果も景観的にありがたい。



有馬豆知識

有馬温泉

有馬温泉は、「日本を代表する三つの温泉」のひとつとして名前が挙げられます。

儒学者林羅山が評した「三名泉」(有馬・草津・下呂)、『枕草子』による「三名泉」(有馬・榊原・玉造)、日本書紀・風土記などに登場する「三古泉」(有馬・道後・白浜)や、「三大薬泉」(有馬・草津・松之山)にも挙げられています。

有馬温泉のお湯は、単純性温泉、二酸化炭素泉、炭酸水素塩泉、塩化物泉、硫酸塩泉、含鉄泉、放射能泉の7つの主成分が含まれています。

有馬温泉は金泉と銀泉があり、鉄分を含む含鉄強塩泉は、元は無色透明ですが、空気に触れると酸化して、独特の赤茶色に変化するため「金泉」と呼ばれ、一方、空気に触れても色が変化しない二酸化炭素泉などを「銀泉」と呼ばれています。

有馬籠と竹細工

その歴史は非常に古く 1585 年有馬へ入湯した頭如上人は、有馬土産として秀吉の夫人ねねに、有馬籠を贈ったと伝えられています。

江戸時代に入ると多くの文献で紹介され黒川道祐の「有馬地誌」や「日本山海名物図会」などにも記されています。

また、秀吉と共に有馬を訪れた千利休が茶道具として作らせたのが竹細工です。

現在も、茶道家からの注文が多くあり、店先では店主が竹の特徴を生かして見事な手さばきで編み上げてく工程を見ることができます。

人形筆

飛鳥時代、子供のいない孝徳天皇と皇后宝皇女が有馬温泉に浸かったところ皇子が誕生しました。これにちなんで人形筆がつくられたと伝えられています。

文字を書こうと筆を持つと可愛い豆人形が現れ、寝かせると軸の中に戻ります。

この仕掛けの面白さと共に色とりどりの絹糸で美しい模様の筆軸の美しさに目を奪われます。

